

# あなたと博物館

M HIRATSUKA CITY MUSEUM '91. 1月号

## 迎春



「年神棚」平塚市千石河岸（昭和54年）

明けましておめでとうございます。昨年も、多くの市民の皆さんに来館頂き、又貴重な資料をご寄贈頂きました。職員一同、心から感謝申し上げます。

今年の干支（えと）は、羊であります。ご存知の通り、羊は、大変臆病な性質で、常に群生する習性があります。市民のための生涯学習やコミュニティー施設としての博物館には、臆病は許されません。市民が博物館に求め、期待するものを的確にとらえ、事業化していくことこそ地域博物館のあるべき姿だと考えます。今後とも、こうした積極的な姿勢を失うことなく、博物館運営をしてまいり

ます。

さて、平成3年度は、常設展示の展示替えを予定しております。1階には、ジオラマによって、15メートルの相模川を表現し、自然・人文の両分野の視点から入館者に語りかけ、あるいは情報提供を致します。3階の天文コーナーには、実物の隕石・隕鉄を展示し、隕鉄には、直接触れることができるように設置計画を進めております。どうぞ、ご期待頂きたいと思っております。

博物館長 前場貞三

# 平塚の地盤 - ボーリング資料から -

1月16日～2月27日

## ●ボーリングとは

ボーリングというとボーリング場で行うスポーツ (bowling) を連想するかも知れませんが、ここで言うのは建物などを作るときに地盤の状態を調べるため行う、地下に孔をあける作業 (boring) のことです。コンクリート造の建物を建設するとき、橋やトンネルなどを作るとき、工業用水を汲み上げるときなど、必ずこのボーリング調査により、地盤調査や土質試験を行い、建造物の設計や施工の基礎とします。みなさんがふだん使っている石油や観光地の温泉の湯も、ボーリングによって地下 数百メートル から得られているのです。

## ●平野の地層

平野を構成している地層は、建設工事の時に地下に潜らなければ直接見ることはできませんが、このボーリング資料を収集することにより知ることができます。

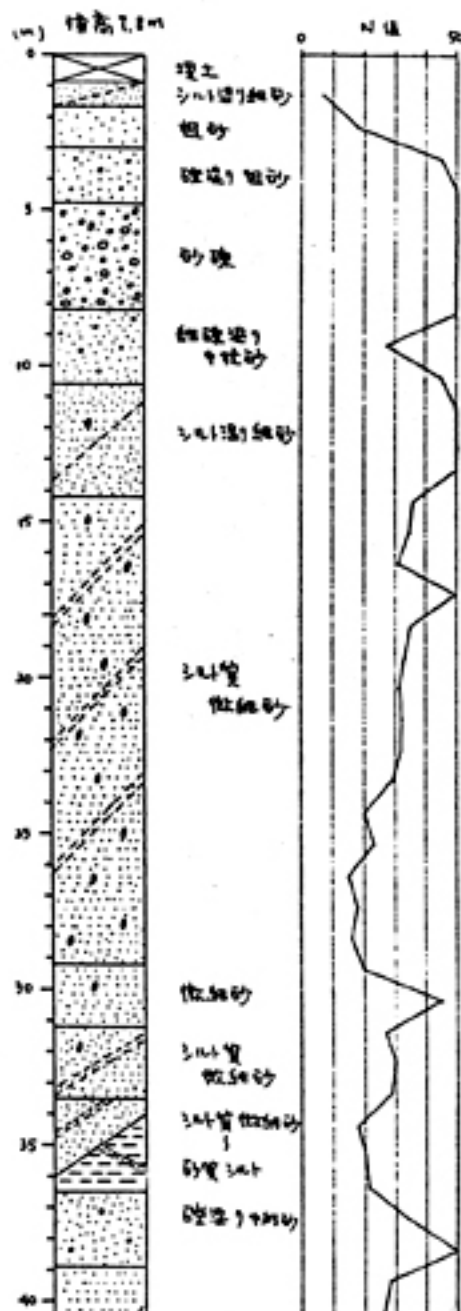
右図には来春開館を間近にした平塚市美術館のボーリング資料です。これによると表層の埋土や表土の下には砂が厚く 40 m 以上も堆積しています。地下 5 ~ 8 m にある砂礫層は海浜礫と考えられます。地下 11 m (標高 - 3 m) から下には貝殻を多量に含んでおり、浅海に堆積したことを示しています。

また、図右側の N 値とは標準貫入試験といい、ハンマーに何回打撃を加えたら 30 cm 貫入するかを数値で示したもので、地盤のかたさを示しています。粒子が粗いほど地盤が良く、N 値が低いと軟弱地盤と呼ばれます。

こうした資料を数多く集めて、横へつなげていくと、平塚の平野の地盤がどのようなになっているのかを推定することができます。常設展示の「地下をのぞこう」は、こうしたボーリング資料を整理してつくったものです。

最近、地震の際に地盤の液状化が取り上げられますが、我々の生活する地盤について深い関心と理解を持ちたいものです。

博物館では開館以来、平塚市域やその周辺地域のボーリング資料を収集し、現在 1000 本を越える資料が収蔵されています。しかし市域のあらゆる場所の地下断面を描くにはまだまだ不十分です。市街地では数が多いものの、市の周辺部をもっと収集したいと思っています。これを機会に、ボーリング資料をお持ちの方は是非収集にご協力をお願いします。



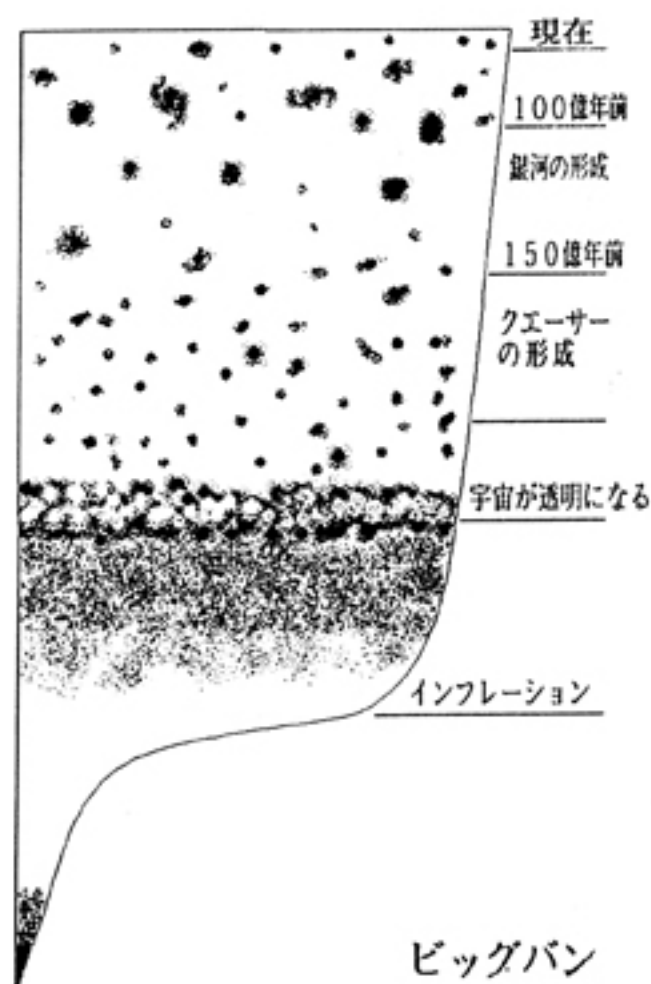
平塚市美術館のボーリング柱状図

## プラネタリウム投影案内 「時間をさかのぼると」 (投影.1/12~)

「私たちの宇宙は、いったいどこまで続いているのだろう。いつ、生まれて、これから先は、どうなるのだろう。他にも宇宙はあるのだろうか。」などと考えてみたことはありませんか。古代から人々が関心をもち続けてきた宇宙創世の物語は、最近になって、天文学ばかりか量子力学や素粒子と呼ぶ物質の最小単位に迫る研究も取り込んで、驚くべき予測がなされ始めました。

時間は、「ビッグバン」と呼ぶ宇宙誕生のときから常に一定のスピードで進んでいます。空間も1点にすぎなかった時から、猛烈な勢いで膨張を始めました。今では、誕生から200億年位たち、宇宙のひろがりには私たちが見通せる範囲でも150億光年にもなると言います。宇宙誕生のときのなごりは、遠い天体や背景放射とよぶ電波に見ることができます。遠くを見ると過去がわかる、という事になります。

現代科学は、どこまで宇宙誕生に近づいたか、今回のプラネタリウムでは、実験や観測の結果から導き出された宇宙の始まりにさかのぼります。



## 「出前しています。博物館。」

「博物館の出前」をキャッチフレーズに始められた「移動博物館」も今年で8年目を迎えます。毎年、4館から5館の地区公民館で開かれ、昨年までで、のべ35館になりました。これまでの実施例をいくつか紹介します。

- ・「平塚の野鳥」(野鳥の生態写真や剥製の展示)
- ・「身近な自然観察」(林や草原に見られる植物・昆虫の写真や標本を展示。また、自然の観察の仕方を紹介)
- ・「星を見る会」(望遠鏡を使った月や星座の観察会)

この「移動博物館」は公民館祭りの事業とタイアップして行われ、多くの市民の皆さんに親しまれています。期間中は、博物館の担当学芸員も出向き、展示資料の解説・指導をしたり、ご質問に応じたりしています。今年度の開催場所が決まり次第、本紙「あなたと博物館」や市の広報紙でお知らせ致します。ご期待下さい。



## 行事案内

### 1月の予定

6	日	漂着物を拾う会※8時平塚海岸
12	土	古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会 ナチュラリスト講座 「雑木林と人々の暮らし」 天体観察会「スターウォッチング」
19	土	漂着物を拾う会(茅ヶ崎方面) 平塚の空襲と戦災を記録する会
26	土	古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会
27	日	相模川を歩く会(上野原)
2月の予定		
3	日	漂着物を拾う会※8時平塚海岸
9	土	古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会(新聞作り) ナチュラリスト講座 「クモの映画を撮る」
16	土	平塚の空襲と戦災を記録する会
22	金	星を見る会「月と木星」
23	土	古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会
24	日	相模川を歩く会
12/1~1/13 寄贈品コーナー 「庶民信仰資料展」		
1/6まで プラネタリウム 「流れ星の降る夜」		
1/12~3/3 プラネタリウム 「時間をさかのぼると」		
1/16~2/27 寄贈品コーナー 「平塚の地盤」-ボ-リング資料から-		



※行事内容について分からない点がありましたら、御遠慮なくお問い合わせ下さい。

### ■ナチュラリスト講座

湘南の動植物について、調査や研究をされている方々に、いろいろな話題を提供して頂く講座です。

- ・日時：土曜日、午後6時～8時
- ・場所：博物館講堂
- ・対象：中学生以上
- ・参加：参加を希望される方は直接会場においで下さい。
- ・参加料：無料



### 第16回 1月12日(土)

「雑木林と人々の暮らし」中川重年氏  
(県立林業試験場)

- ・身近な雑木林が暮らしの中でどんな役にたっていたのか、それぞれの木の特性をいかした利用などについて。

### 第17回 2月9日(土)

「クモの映画を撮る」吉田嗣郎氏  
(ネイチャープロダクション)

- ・映画を撮る目から見たクモの生活。撮影して初めて分かった生態など。

### 第18回 3月9日(土)

「都市化の中の野鳥」浜口哲一  
(平塚市博物館)

- ・どんな鳥が都市の中で生き残っているか。そこに棲む鳥たちのくらしぶり。



### ■星を見る会 ☆☆☆☆

月と木星を望遠鏡で観察します。

日時：2月22日(金)  
18時～20時

観察場所：博物館屋上

集合場所：博物館1階科学教室

参加：どなたでも自由に

